慶應義塾 醫学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160―8582
東京都新宿区信濃町35
電話（3353）1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　武田　純三
毎月　１回20日発行

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●外来診療時間＝午前8時40分～午後12時 午後1時～午後4時（特殊外来）
●電話＝03（3353）1211（大代表）

第109回医師国家試験

3年ぶりの新卒合格率100％

平成27年2月7日から9日にかけて実施された第109回医師国家試験の合格発表が、3月18日に厚生労働省より行われた。

第109回医師国家試験の受験者総数は9057名、合格者は8258名で全体の合格率は91・2％であった。昨年の90・6％より増加し、医師国家試験が年1回の実施となった1985年以降では最高の数字となった。男女別合格数は男5655名、女2603名と、合格者のうち31・5％を女性が占めた。合格基準は一般問題129点以上（200点満点）、臨床問題405点以上（600点満点）、必修問題160点以上（200点満点）、禁忌肢問題選択数3問以下であり、臨床問題のボーダーが僅かに上がったこと以外に大きな変化はなかった。

ここ最近の傾向として、問題文中に「現時点の」という語句が入るものが多いということが挙げられる。研修医としての最初の行動を意識した設問なのだろう。他にも臨床実習を重視する問題や、診断を確実につけさせる問題が増加している。医学部教育の中で単なる暗記による知識だけではなく、医師として働くための考え方を身につけているかを問う傾向にあると言えよう。

本塾医学部では総計117名が受験し110名が合格（94・0％）した。うち新卒は108名が受験して全員が合格（100％）し、91回生以来3年ぶりの新卒合格率100％を達成した。もちろん92回生、93回生もすばらしい成績を残したが、それをも上回る94回生（現6年生）の努力とその成果は驚嘆に値する。最近学生と教員の間で囁かれてきた学力低下の心配を払拭する結果に、安堵する方も多いだろう。

この結果は94回生国家試験対策委員によるきめ細やかな対策があってこそのものだ。早くから前年の国家試験の傾向を踏まえた説明会を行い、積極的な模試受験の推奨など計画的な学習を促した。時には委員が直接他の学生とともに勉強し、進捗度を量る姿も見られた。またこのような委員達の活動により、学年全体のモチベーションも上がり合格を目指す雰囲気が強くなったのであろう。

重圧をはねのけ難関を通過した今年の94回生には敬意を表したい。4月より医師になる108名には、本学の名に相応しい活躍を期待したい。

（5年　鈴木友博）

第109回医師国家試験　新卒合格率順位

順位	大学名	合格率（％）	合格者数／受験者数
1	慶應義塾大学	100	108/108
1	浜松医科大学	100	105/105
1	千葉大学	100	98/98
1	金沢大学	100	95/95
1	帝京大学	100	88/88
1	鳥取大学	100	72/72
7	自治医科大学	99.1	110/111
7	順天堂大学	99.1	110/111
9	東京慈恵会医科大学	99	98/99
10	山梨大学	98.4	120/122

速報　次期医学部長に岡野栄之君が就任

平成27年4月より末松誠医学部長が日本医療研究開発機構（AMED）初代理事長に就任し、3月末をもって退任することを受け、大学院医学研究科委員長の岡野栄之君が次期医学部長に就任することが決まった。

次期医学部長の選出については医学部長選出内規に従って進められ、2月17日の第1次投票によって選出された第1次候補者3名（うち1名辞退）に対して3月16日開催の教授会で投票を行い、岡野栄之教授が選出された。

岡野君は1983年慶應義塾大学医学部卒業後、生理学教室（塚田裕三教授）助手、大阪大学蛋白質研究所（御子柴克彦教授）助手、米国ジョンス・ホプキンス大学医学部生物化学教室研究員、東京大学医科学研究所化学研究部（御子柴克彦教授）助手、筑波大学基礎医学系分子神経生物学教授、大阪大学医学部神経機能解剖学研究部教授などを経て、2001年より慶應大学医学部教授に就任。21世紀COEプログラムやグローバルCOEプログラムの拠点リーダーなども務め、慶應医学のみならず日本を代表する基礎医学研究者として活躍する。2009年には紫綬褒章を受章。

医学部長を拝命しまして

岡野　栄之（生62回）

このたび、医学部長職を拝命しました岡野栄之でございます。当医学部は、創立100周年と新棟建築という極めて重大な局面を迎えておりますので、身も引き締まる思いでありますが、ここに医学部長としての抱負を述べさせて頂きます。

私は、学内外から様々な角度より慶應義塾大学医学部を見て来まして、「大学とは学問をするところである」と確信するに至りました。当医学部にとって学問とは、まさに「教育」「研究」「診療」の実践であります。私は、改めてこの原点を踏まえ、将来の発展を見据えた医学部運営を行いたいと思います。つまり「教育」が「研究」と「診療」を培い、「研究」が「教育」と「診療」を牽引し、「診療」が「教育」と「研究」を開花させ、堂々たる百周年を誇れる「世界に冠たる医学部」を目指し、出来ることから着実に取り組んで行きたいと思います。

一方、医学部長の仕事は医学部内だけに留まりません。学外では中央省庁およびAMED, PMDAなどの公的機関からの情報収集を積極的に行い、迅速に対応出来る体制を作ります。また、新棟建設に向けた資金調達のために三四会そして連合三田会、塾員関連企業との連携を強化し、学内では塾長をはじめとする義塾執行部そして他学部、一貫教育校との「社中」協力体制を盤石にして行きたいと思っております。

皆様、ご指導の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

平成26年度卒業式　医学部108名が社会へと羽ばたく

平成26年度卒業式が3月23日、日吉記念館で行われた。卒業生や彼らを祝福する家族で賑わう中、式典は午前10時定刻に開始された。

開式の辞より始まった式典では、まず長谷山彰常任理事による学事報告がなされ、各学部の卒業生数および表彰者数が読み上げられた。卒業生数は全学部で6456名、うち医学部は108名であった。次に各学部の代表者への学位記授与が行われ、医学部からは神谷高博君が受領代表となった。続いての各種表彰では、太学表彰規程による表彰、すなわち医学部首席として齋藤優樹君が表彰を受けた。次に小泉体育努力賞として、医学部から柔道部1名、水泳部16名、競走部2名、空手部7名、ゴルフ部9名が表彰された。最後に小泉体育奨励賞や塾長賞の表彰が行われた。

各種表彰の終了後、清家篤塾長が式辞を述べた。塾長は、福澤先生が"society"を『人間交際（じんかんこうさい）』と訳すほど、人との交わりを大事にしていたことに絡め、「互いに学び、互いに高めあう術を身に着けた卒業生には、これからも半学半教の精神をもってこれからの人生を切り開いていってほしい。そのためにも自らが他に教えることのできる何かを蓄え、そして常にどんな人とも対等に接して謙虚に学ぶことを忘れずにいてほしい」とエールを送った。

次いで、公益財団法人根津美術館顧問の西田宏子氏から塾員代表として祝辞があった。西田氏は自らの経験を例に出しつつ、4月から社会人になる卒業生に、「自分の仕事を好きになることで、あらゆる可能性が見えてくる」、「世界に羽ばたいていくことになっても、母国語としての日本語を大事にしてほしい」という2つのメッセージを送った。これに続き、理工学部の松井忠宗君が在学生代表で送辞を述べた後、卒業生代表として経済学部の村西拓哉君が登壇し社会に出る上での決意を語った。

式の結びには、会場にいる塾職員と卒業生など、慶應社中による塾歌斉唱が行われた。同会場では引き続いて2015年三田会結成式が行われ、無事閉式となった。

（5年　鈴木友博）

塾歌斉唱

「平成26年度謝恩会」開催

本年度の謝恩会が3月23日、帝国ホテル富士の間において執り行われた。今年度の卒業生である94回生が参列し、会は終始和やかな雰囲気で進行した。

謝恩会は19時に開会し、来賓の挨拶、卒業生紹介、卒業記念品授与、寄贈品贈呈、謝恩会委員挨拶、若き血斉唱と続いた。

清家篤塾長は挨拶にて、高齢化社会における地域包括ケアや在宅医療などの必要性、財政上の制限、医療技術の進歩などがもたらす変化に対応できる柔軟性が本塾卒業生の強みであると語った。さらに、北里柴三郎先生の教えにあるように、基礎と臨床の両方の知識や技能を高めていくことが重要だと説いた。

比企能樹連合三田会会長は865ある三田会のうちの1つである三四会の会員となり、三田会の様々な援助の下、存分に活躍してほしいと語った。

戸山芳昭常任理事は慶應病院の理念を中心に語り、初期研修で一回りも二回りも大きくなって戻ってくるようにと期待を寄せた。

竹内勤病院長は、ノーベル賞学者である江崎玲於奈博士の言葉を引用し、高い目標をもった挑戦者であるようにと鼓舞した。

武田純三三四会会長は半学半教の精神を忘れず、常に成長するようにと語った。

岡野栄之医学研究科委員長は東医体の優勝と医師国家試験合格率100％を同時に達成したことに誇りを持つようにと述べた。

末松誠医学部長は、退任する自身も一人の卒業生であるとして感謝の意を述べ、94回生への餞の詞として「退かざるものは必ず進む。進まざるものは必ず退く。常に前進してほしい」と語り、来賓挨拶を締めくくるとともに、自ら乾杯の音頭をとった。

94回生が卒業後も更なる飛躍を遂げ社会の先導者となることを願うとともに、我々在校生も義塾で学ぶ者としての自覚をより一層強く持ち、世界の医学の進歩に寄与できるように研鑽を積む必要があると強く感じた。

（5年　山下友寛）

晴れ姿の94回生

卒業生に贈る言葉

生涯の仲間の三四会

三四会長　武田　純三（麻52回）

94回生の皆さん、卒業おめでとうございます。また、これまで温かく見守って育ててこられた御父兄の皆様には、心よりお喜び申し上げます。

皆さんは、医学の道への最初の入口である入学式から6年間、一生懸命勉強してこられたものと思います。国家試験を通れば、晴れて念願の医師免許を手にする事が出来ます。しかし、本当の医学の道は、これから始まる初期研修が、実質的なスタートとなります。そして医師は、一生涯勉強し続ける事になります。

皆さんは医学部を卒業すると、慶應義塾大学医学部同窓会三四会の正会員となります。全国には医学部・医科大学をあわせて80あり、それぞれに同窓会がありますが、中でも三四会は結束が強いことで知られております。初代医学部長・病院長を努められた北里柴三郎博士が初代三四会長を務めておられ、現在約9000名の会員を擁し、全国に70以上の支部三四会を有しております。月刊での医学部新聞の発行、三四会名簿の作成、北里賞・北島賞・三四会賞の授与、生涯研修セミナーの開催、医学部白衣式や卒業生謝恩会への協賛、20周年を迎える赤倉山荘、医師ワークライフ、連合三田会への参加などの事業を行っております。また、本年6月に第一期の建物が竣工を迎える新病院棟建設に向けて、募金活動に拍車がかかっております。さらに、塾には塾歌や若き血のほかに、慶應賛歌や丘の上などの歌がありますが、この度三四会賛歌を作る事になりました。現在歌詞の募集を行っております。

医学部卒業後には、慶應病院や関連病院、あるいはその他の病院で初期研修を受け、さらにその2年後には、今度は新しい専門医制度での後期研修制度に則って、専攻医として慶應義病院や関連病院で、専門医を目指して研修を受けることになります。また、大学院に進んだり、あるいは指導者の下で論文を書き上げて学位を取得することでしょう。この間に皆さんは、多くの三四会員の先輩から、慶應醫学の考え方を教わり、指導を受け、一つずつ身に付けていくものと思います。また、一人前の医師となってからも、三四会員同士の繋がりも多く、互いに影響を受け、かつ与えながら、医師としての活動を続ける事になります。三四会は、会員同士の強固な繋がりにより、生涯医師である皆さんの臨床、研修、研究面での活動の手助けをする同窓会です。慶應醫学を学んだ者の、生涯お付き合いできる仲間の組織であります。

募金の声

慶應のお家芸

皮膚科学教室　教授　天谷　雅行（64回）

医学部創立100年に当たる2017年度竣工にむけて新病院棟建設計画が着実に進んでいます。既に一期棟の骨格は完成し、シートに覆われているその全貌が露わになる7月が待ち遠しい限りです。6階建ての一期棟でもこれだけの迫力があるので、その容積が数倍にも及ぶ二期棟完成時の荘厳さは想像しただけでも興奮を禁じ得ません。

新病院棟完成は、周到な建設計画と資金調達の両輪が動くことで初めて実現されます。資金調達の中で、寄附により総額100億円を賄うことが期待されています。寄附者を、企業、全塾、三四会と分類すると、三四会負担分の募金状況がやや遅れていることが指摘されています。

私が皮膚科学教室に入室したのは1985年ですので、当時の病棟は6号棟1階でした。男女トイレの仕切りがカーテン一枚など、「歴史を感じる味のある」病棟でした。その後二号館竣工時に6号棟2階に移った後、2013年8月31日に閉棟となるまで約四半世紀を6号棟で過ごしたことになります。住み慣れてみるとそれなりなのですが、新病院棟が建設され、新しい環境で入院診療ができることを一日千秋のごとく待っていました。そして、それがついに現実のものとなってきたわけです。

慶應病院は3年前の2012年1月に、紙カルテから電子カルテに移行しました。当時武田純三病院長のもと、医療情報システム担当副病院長としてこの一大事業に参画しました。約1年の準備期間がありましたが、病院全体を巻き込む事業であり、時間がいくらあっても足りませんでした。毎週準備委員会を開催していましたが、案件が山積み状態でした。電子カルテ導入まで6週間を切った時点で、土曜日の休診日に病院全体で模擬患者を200人以上導入してシステム運用リハーサルを行いました。その時のリハーサル後の講評は、改善すべきことがあまりにも多く「こんな状態で本当に電子カルテを導入できるの？間に合うの？」という状況でした。その後、4週間前に2回目のリハーサルを行いましたが、「眠れる獅子はまだ目覚めぬ状態」でした。ところが、2週間前のリハーサルで、考えられないスピードで適応能力を見せ始め、本番の年始年末の移行では大きな問題もなく、無事に電子カルテ導入をすることができました。このときに気づかされたことがあります。伝統ある慶應は、「最後はきちんと合わせてくる」という隠し宝刀を持っているのだと。

したがって、今回の三四会の皆様の募金状況の立ち上がりが芳しくないことはあまり悲観しておりません。最後はきちんと合わせてくるのが慶應流であると確信しております。

しかし、寄附しようか、どうしようか迷われているのであれば、早く楽になるに超したことはありません。お早めのお手続きをお勧めいたします。

募金豆知識

法人からのご寄付の場合 全額が損金算入できる方法

法人（医療法人、株式会社、など）からのご寄付の場合、学校法人への寄付者に対する税の優遇措置制度として、「特定公益増進法人」への寄付制度と「受配者指定寄付金」制度があります。法人から日本私立学校振興・共済事業団を通して、学校法人慶應義塾への受配者指定寄付金による寄付をしていただくと寄付金の全額が損金算入できます。

お問い合わせは、慶應義塾基金室へお願いします。
Tel.03-5427-1898（平日午前9時～午後5時）
e-mail:kikin-box@adst.keio.ac.jp

なお、三四会専用の法人申込み用紙をお送りしますので、ご一報下さい。

慶應義塾大学病院　各種お問い合わせ先

・初診予約（午前9時～午後7時、第2・4・5土曜日は午後5時まで）

三四会ホットライン
TEL 03-3353-3034（ミオサンシ）

医療機関用
TEL 03-3353-1257　FAX 03-5843-6167
WEB「病院ホームページ」→「お問い合わせ一覧」→「医療機関の方へ」→WEB申し込み：初診外来予約フォーム（24時間申込）→医療機関からの初診予約申込フォーム
・検査予約（午前8時30分～午後5時）
PET/CT…TEL 03-5843-6165
SPECT …TEL 03-5843-7071
・予防医療センター：人間ドック（午前8時30分～午後5時）
TEL 03-6910-3533

鑑定知恵

酸素吸入が医療の場で使われるようになったのは、はるか昔のことではなく、つい最近のことである。酸素は支燃性の性質から溶接や切断などの工業に広く活用されていたが、1918年から20年にかけてのスペイン風邪の特効薬として酸素が一大ブームを巻き起こした。工業用酸素の供給会社に市民が殺到し入荷を待って徹夜の行列を作ったという。

水素と酸素を反応させて電気を取りだす、エネルギー源としての水素の利用が、Economy、Energy、Environment、いわゆる3Eのトリレンマを解決する鍵として脚光を浴びている。燃料電池車の販売、移動式水素ステーション開設と水素社会の実現に向けた産業革命が進みつつある。

水素水（水素を溶かした水）をはじめとする水素サプリメントは、健康食品として注目を集めてきた。2007年に水素が体の中の悪玉活性酸素（酸化や老化を促す物質）を排除する働きがあるという科学的裏づけが得られ、夢のアンチエイジング商品として水素ブームに拍車がかかった。

過剰な酸素吸入は有害である。酸素毒性は活性酸素による細胞ないし組織障害が主因である。酸素に水素を混ぜて吸入させれば酸素毒性は中和される。一方で、水素を医療用ガスとして使用するためには、患者さんの呼吸状態に合わせて酸素を補うことが必要である。

水素濃度が4％以上混ざった気体に点火すると爆発がおこる。水素の効果を最大限に引き出すためには2％前後の水素吸入が必要である。水素吸入が医療の現場で普及していくには、安全に水素を供給し、酸素と水素を安全に混合する医療機器の開発が必要不可欠となる。

慶應大学病院では、救急科、循環器内科が協力して、世界に先駆けて水素吸入が心筋梗塞や心肺停止蘇生後症候群に有効であることを動物実験で検証し、患者への投与を開始した。水素分子医療の実現のためには、さらなる産学官連携強化が必要である。

（循環器内科准教授　佐野元昭　71回）